

長 第 4 5 2 号  
福 健 第 7 4 7 号  
令和 8 年 5 月 1 9 日

各関係機関・施設長 各位  
(医療機関、訪問看護ステーション、介護・福祉施設 等)  
各市町(高齢福祉担当課) 各位  
関係各課長 各位

福井県健康福祉部長寿福祉課長  
福井健康福祉センター所長

「ふくいみまもり SNS 活用推進意見交換会」の開催について

平素は、本県の地域包括ケアシステムの推進および医療・福祉行政に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。また、日頃より「ふくいみまもり SNS」をご活用いただき、誠にありがとうございます。

さて、医療・介護の多職種連携を目的として導入された「ふくいみまもり SNS」ですが、現場の皆様からは「情報共有のメリットがある一方で、確認や返信の手間など業務負担が生じている」といった声も寄せられており、より一層の普及に向けては運用面の改善が急務となっております。また、令和 8 年度診療報酬改定で在宅医療情報連携加算が見直され、安全なプライベート SNS の重要性が高まっています。

そこでこの度、現場でシステムをご利用いただいている医療機関・福祉施設の皆様をはじめ、県・市町の行政担当者が一堂に会し、より現場の負担にならない現実的な運用ルールの構築や、今後のシステム改修に向けた要望、さらには認知症や医療的ケア児など福祉分野への新たな活用方策について議論する「意見交換会」を下記の通り開催いたします。

本会議で皆様からいただいた現場のリアルなご意見は、本年度予定しているふくいみまもり SNS の運用ルール策定等に直接反映させる予定です。つきましては、本会議の趣旨にご賛同いただける機関および各市町・関係課の皆様におかれましては、別添の参加申込書によりお申し込みくださいますようお願い申し上げます。

記

1 日時

令和 8 年 6 月 1 1 日(木) 13:30 ~ 16:30

2 場所

福井県立図書館 多目的ホール(福井市下馬町 5 1-1 1)

3 主な対象者

医療機関(医師等)、訪問看護ステーション、介護・福祉施設の関係者、各市町(高齢福祉担当課等)、県関係課(地域医療課、障がい福祉課、児童家庭課、高校教育課、危機管理課等)等

※ 現在システムを未利用の施設・部署の方も是非ご参加ください。

#### 4 プログラム内容（予定）

本会議は、フラットに意見を言い合える「グループワーク形式（模造紙・付箋を使用）」で実施いたします。

##### 第1部：「医師の負担にならない運用ルールと今後の方向性」

【講演】 診療報酬改定とみまもり SNS の活用について（県医師会 末松先生）

【事例発表】 現場での積極的活用事例について（福山医院 福山先生）

【グループワーク】 多職種混合グループでの課題共有と解決策の検討

##### 第2部：「福祉分野への活用拡大の検討」

【グループワーク】 「認知症」「医療的ケア児」「気がかり児童」などの分野別にグループを分け、新たなシステム活用の可能性について意見交換を行います。津田先生にもご参加いただき、特に医療的ケア児の観点からご助言いただく予定です。

#### 5 お申し込み方法

6月1日(月)までに、以下の Web フォーム（または別添の「参加申込書」）にて、ご参加される方のご氏名・職名・職種をお知らせください。

【Web フォーム】

<https://forms.cloud.microsoft/r/CehX1TTrZk>

（上記リンクQRコード）



【長寿福祉課担当（回答先）】

地域包括ケアグループ 堀、河端

TEL：0776-20-0330

FAX：0776-20-0713

Email：y-hori-rn@pref.fukui.lg.jp

【福井 HWC 担当】

地域保健課 示野、角田

TEL：0776-36-6810

別添

「ふくいみまもり SNS 活用推進意見交換会」 参加申込書

提出期限：令和8年6月1日（月）

【ご提出先】 福井県健康福祉部長寿福祉課 地域包括ケアグループ 堀・河端 行  
FAX：0776-20-0713 / Email：y-hori-rn@pref.fukui.lg.jp

以下の必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてご送信ください。

1. 貴機関（施設）情報

機関・施設名	
所在地	
連絡先(TEL)	
連絡先(Email)	
連絡担当者名	

2. 参加者情報

※グループ分けの参考のため、職種（医師、看護師、ケアマネ、行政職等）を必ずご記入ください。

No	氏名（ふりがな）	職名・職種・所属部署
1		
2		

3. 事前のご質問・ご意見（任意）

--

※ 以下の Web フォームもご回答頂けます。

【Web フォーム】

<https://forms.cloud.microsoft/r/CehX1TTrZk>

（上記リンクQRコード）



(参考) 第2部「福祉分野への活用拡大」に関する具体的な活用イメージ

## 1. 認知症分野の活用イメージ

- **行方不明時の検索サポート機能 (SOS ネットワーク)**
  - 各市町が運用している「SOS ネットワーク」等と連携し、行方不明時に地域の協力機関（スーパー等）へ検索依頼を出す仕組みとして活用する。
  - 「個人情報知られるのが嫌」「恥ずかしい」といった理由から家族による事前登録の心理的ハードルが高く、現状は活用が進んでいないとの課題がある。
  - 対策として、普段から社会参加などの用途で利用者を増やしておき、いざという時にSOSを流せるような「利用癖」のつくネットワーク構築が出来ないか。
- **社会参加・コミュニティ活動の促進**
  - 地域のサロンの取り組みを案内するなど、社会参加を促す情報提供ツールとして活用する。
  - 各市町に置かれている「チームオレンジ」において、ご本人と認知症サポーター、コーディネーター等が参加し、ご本人の「やりたいこと」や「困りごと」を共有・サポートするためのツールとして活用する。
- **グループホーム等での医療連携**
  - グループホームに入居している認知症高齢者に対し、かかりつけ医がそれぞれ往診を行う際の情報共有ツールとして活用する。

## 2. 医療的ケア児分野の活用イメージ

- **緊急時のレスパイト（一時預かり）等の支援要請**
  - 体調不良時や、家族が冠婚葬祭等でどうしても家を空けなければならないピンチの時に、緊急のレスパイトを依頼するための情報共有に活用する。
- **学校行事等における付き添い（訪問看護師等）の手配**
  - 遠足、運動会、体育祭、修学旅行などの学校行事において、長時間の付き添い人員が必要になった際の要請・調整ツールとして活用する。
  - 天候不順などで学校行事が順延になり、予定していた訪問看護師が対応できなくなった場合に、急遽別の人に手伝いを依頼するための「ヘルプツール」として活用する。

### 3. 気がかり児童（虐待疑い、ネグレクト、不登校等）分野の活用イメージ

- 微細な「SOS サイン」の早期発見と初動対応の迅速化
  - 学校の教員（担任や養護教諭）が、児童の不自然なアザ、極端な体重減少、衣服の汚れなどの「気がかりな変化」を発見した際、SNS 上に客観的な記録をセキュアにアップロードする。
  - 児童相談所の担当者や学校医が即座に情報を確認し、「一時保護の緊急性」や「保護者への安全なアプローチ方法」をオンラインで迅速に協議することで、対面会議の日程調整による初動の遅れを防ぐ。
- 不登校・保健室登校児童の「生活リズム」の可視化と環境調整
  - 保護者が家庭での睡眠状況やゲームの使用時間を入力し、教員は保健室での様子を記録するなど、家庭と学校の双方の情報を SNS 上で一元化する。
  - 児童精神科等の主治医は、次回の診察日を待たずに日々の生活リズムの乱れを把握でき、学校と家庭に対して SNS を通じた統一的な環境調整のアドバイスをを行うことが可能になる。

### 4. 障がい児（発達障がい、知的障がい等）分野の活用イメージ

- 服薬効果と副作用の「多面的・客観的」な評価
  - 発達障がいの児童に対し、医療機関で新たな内服薬が開始・増量された際、学校の教員は「授業中の集中力」、放課後デイのスタッフや家族は「帰宅後の食欲低下」などの変化を記録する。
  - 医師は、診察室だけでは見えない「実際の生活場面での薬効や副作用」を多職種の目線から正確に把握した上で、より適切な処方調整を行うことができる。
- パニック時の「クールダウン手法」の共有と対応の統一
  - 学校でパニックが起きた際、「何がトリガーになったか」と「どのような声かけや環境調整で落ち着いたか」という対応の成功体験（ナレッジ）を教員が記録する。
  - そのナレッジを家庭や療育機関に即座に共有することで、どの環境においても一貫した効果的な個別支援が可能となり、保護者や支援スタッフの精神的な負担軽減にも繋がる。